

UD教育実践を冊子に

児童の困惑軽減

指示手順決め

掲示物減

北川副小実行委

佐賀市

障害の有無にかかわらず誰でも学びやすい環境づくりを目指すユニバーサル(UD)教育を進める佐賀市の北川副小UD事業実行委員会は、同校の取り組みをまとめた小冊子を作成した。気が散らないよう掲示物を極力減らした教室や、食物アレルギーを見分けるためにお盆の色を変えるなど、工夫を紹介している。

北川副小では、漢字を覚えるのが苦手だったり、計算ミスが多い、集中が続かない、感情の起伏が激しいなど、学校現場で困惑を感じている児童を支援しようと工夫している。

授業では学習の流れを板書したり、ICT機器を積極的に活用。担任ごとに指示内容が変わらないよう、掃除や給食などの手順や決まりを定め、児童の戸惑いを減らすと試みている。

UD事業実行委は、北川副小、学校運営協議会、PTAのメンバーで構成。学校現場や家庭で発達障害の話題が上がるようになり、地域で理解を広げようと取り組みを始めた。

小冊子は18ページ。編集に携わった学校運営協議会の大野博之さんは「できるだけ『障害』という言葉を使わないようにした。先入観なく理解してもらい、地域で意識を共有したい。さまざまな個性を持つ子どもが困らない学校は、誰にとっても楽しいはず」と話す。

冊子は4千部発行し、希望者には郵送する。問い合わせは同校、電話0952(2)3(6)096。

冊子

佐賀市の北川副小の教員、保護者が作成したUD教育の取り組みを紹介した小冊子



(山口貴由)